

【様式第 4 号】

令和 8 年度 第2回 保土ヶ谷区障害者地域自立支援協議会 当事者活動支援部会 会議録	
日時	令和 8 年8月19日(水) 17:40~18:50
開催場所	地域活動ホームゆめ ボランティアルーム
出席者 (敬称略)	当事者 1 名、ときわ虹の会 2 名、ほ도가や希望の家、基幹相談 2 名
欠席者	SMILE、保土ヶ谷区生活支援センター
開催形態	公開(傍聴人: 名)・ 非 公開
議 題	<u>①区制100周年への取り組みについて(希望の家より報告)</u> ・区内の小中学校の先生方と連絡を取り始めた。夏休み期間に入ってから連絡し始めたので、なかなか先生がつかまらず、具体的に話が進むのは9月以降になる見込み。 ・障害福祉にまつわる「これまでの10年とこれからの10年について」についてそれぞれの考えを聞き取りし、まとめていく。 具体的に言えば、 『障害者について、みんなはどう思うのか。』 『これからどうすれば、障害のある人も行きやすい、誰にも優しい地域社会ができるか』などをテーマにしたい。 ・100周年企画については、当事者活動支援部会に直接かかわってもらう形とはしない(以前に説明した通り)。 生活支援センターから2名(センターのピアスタッフを含む)、児童家庭支援センターゆめのねのセンター長、ほ도가や希望の家から1名がコアメンバーとなって活動中。 小中学校との間のやりとりや、実際のヒアリングはこのメンバーで進める予定。
	<u>②初夢まつり(R9年1月)、かるがもフェス(R8年11月)について</u> (結論) 初夢まつり、かるがもフェスとも参加しない。 (あがった意見) ・かるがもフェス、初夢まつりともに今年度は8月中に参加する参加しないの手上げをすることになり、今回の部会で意向を決める必要があるが、今日の今日では参加するかどうかを決められない。 ・昨年、一昨年と初夢まつりにしてきて、イベントに参加することで障害の啓発につながるのか確信が持てない。他の方法があるのではないか。 ・初夢まつり、かるがもフェスの日程が他の予定と重なり、当日参加が難しい。(1団体) ・初夢まつりに昨年参加した時、場所が悪くて人があつまらなかった。宣伝もしてもらえなかったという思いがある。 →主催側としては、ゲストで来てもらった和太鼓などの団体に対しては、主催スタッフ側でチラシ作成をしたり、当日のPRも積極的におこなっているが、当事者活動支援部会の参加は、場所をお貸しして、ご自分たちの発表の場、PRの場として使ってくださいね、という趣旨。(初夢まつりに出店する食品屋台・や自主製品の屋台も同

様)

→現実問題として、チラシ作成や当日の呼び込み等のマンパワーが不十分。

これらの議論を踏まえ、令和8年度は当事者活動支援部会および、部会参加団体の個別出店（初夢まつり、わいわいフェスティバル）は参加申し込みを行わない。

③他区の啓発活動や当事者活動の取り組みについて（情報共有や意見交換）

（当事者からの意見）

- ・障害のある人に限らず、地域で様々な人がつながる「ネットワーク」に関心がある。（南林間にある）しんちゃんハウスのイベントに行ってみたい。

◆しんちゃんハウス

地域の共育力を高め、楽しく子育てができる環境作りが目標。また、地域に根ざし、バリアフリーの精神に基づき、お年寄りから赤ちゃん・学生も主婦もハンディを持った人も、みんな地域家族で生活していくことを掲げたNPO。

<https://shinchanhouse.com/>

- ・楽しみを持つことがゴールではない？その先も考えなければならない時代になってきて、その中でどんな「つながり」があればいいか考えたい。
- ・ネットワークを広げたい。場を維持、発展させるノウハウを学びたい

（このほかに出た意見として）

- ・当事者の余暇的な楽しみが減ってきている。人としての豊かさを感じられるようにならないか
- ・保土ヶ谷にあったコミュニティサロン。今は席亭が変わり、障害者が生きやすい雰囲気なくなってしまうが、若い子たちが集うサロンで、障害の方もぜひという参加しやすい空気があり、そういう場があると良い。
- ・行ったら「話を聞いてもらえる」「逆に相手の話を聞ける」ような場がほしい。特に精神疾患のある当事者や発達障害の方が気軽に行ける場を作れないか。
- ・18歳の壁で行くところがない人（ひきこもりになる人？）を対象に、日中一時預かりではなく、居場所づくりを考えていくべきではないか

（皆さんが気になるコミュニティサロン）

- ・大和市 しんちゃんハウス（詳細は上記を参照）
- ・旭区鶴ヶ峰で精神障害の方の集う場となっている喫茶「ゆいまーる」（木々の会）
- ・西区 西PEC部会（しゃべり場一年4回開催、ぎのふえす＝毎年1月に開催）
- ・瀬谷区 ゆるり瀬谷（ひきこもり当事者や経験者の当事者活動 ※支援者や家族は参加できない）
- ・「ときわ虹の会」でも定期的にサロンを開催し、当事者が参加している。

～基幹相談から情報提供（会議後の追記）～

- ・ヤドカリレジデンス（障害に限らず、地域の人と人をつなぐ場づくり）
- ・&しゃしんかん（難病の子を持つフォトグラファー中祖直子さん 障害のある息子のことを、地域の方々にどう伝えていけるかを模索中）

④ 10月の「当事者活動支援部会」に向けて

- ・他地域でやっていることも参考にしながら、保土ケ谷ならではの「居場所づくり（サロン）」に取り組みたい。（参加者：全員合意）

◎西P E C部会（しゃべり場、ぎのふえす）などのノウハウを学びたい。

10月14日の会議に、誰か来てもらって、話を聞けないか

→基幹相談から、西P E C部会の事務局に問い合わせしてみる。

- ・グラント・ハマ・モリスが「ぎのふえす」に参加可能かどうか
（ハマモリスの当事者さん →ときわ虹の会から問合わせ）
（ぎのふえす事務局 →基幹相談から問合わせ）

◎部会長、ときわ虹の会、ほかみんなそれぞれで、どんな「居場所」「サロン」が よいか、10月の会議でアイデア出しをする。

次回 令和8年10月14日（水）17：30～ 地域活動ホームゆめ